

早稲田大学 文学部 国語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	90分(現代文2問、古文1問、漢文1問)
難易度	昨年比、昨年並み

〔大問別講評〕

(一) 評論文。「恋愛観の変遷」について。

出典:谷本奈穂『恋愛の社会学』。

《本文字数:約 4700 字＝昨年より約 300 字減少。設問数:8＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問一	やや易	【空欄補充】aは直後、bは三文後から、それぞれ容易に判断できるだろう。
問二	やや易	【空欄補充】空欄ニの直後の文に「結末は…物語の目的だった」とある。
問三	やや易	【漢字書き取り】1＝「崩壊(潰)」、2＝「焦(る)」。
問四	やや易	【空欄補充】70年代には強かったが90年代には弱まった女性の考えである。前後から容易に判断できるだろう。
問五	標準	【傍線部説明】「70年代の『恋愛』は消失した」という意味である。70年代の「恋愛」については、主に16行～20行に書かれている。
問六	やや易	【脱落文挿入】脱落文の先頭の「つまり」に着目。脱落文は直前の内容のまとめである。
問七	標準	【傍線部理解】傍線部Ⅱ以降の本文内容と選択肢を照合する。ハは、「物語が拡散し…」以下は書かれておらず不適切である。
問八	標準	【趣旨合致】ニは、最後から二段落目の内容と合致している。消去法も有効だろう。

(二) 評論文。「人間と自然の交流面としての皮」について。

出典:鶴岡真弓『ホモ・オルナートゥス:飾るヒト』。

《本文字数:約 3400 字＝昨年より約 200 字減少。設問数:8＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問九	標準	【理由説明】第二～第四段落の内容から判断する。傍線部の直後に「人間界と自然界の交流・交換の接触面」とあることがポイント。ハがやや紛らわしいが、「交流」の説明が不足しており、不適切である。
問十	やや易	【空欄補充】傍線部1の直後に「人間界と自然界の交流・交換の接触面」とある。
問十一	標準	【空欄補充】直前の「自然はまさに未分化」であることを言い換える語である。「反転」は39行以降繰り返される本文のキーワードであり、「循環」は58行～59行に「生命循環」とある。
問十二	標準	【傍線部説明】「死」が相反する「誕生」の意味をも持つ、ということである。イがやや紛らわしいが、ロに比べて「境界面としての皮」の価値の説明が不足している。
問十三	やや易	【空欄補充】「装飾」の意味が問われている。次段落の第二文に「装飾とは…元の動物の生命時間以上の時間を付与する」とある。
問十四	やや易	【傍線部理解】前段落の内容から容易に判断できるだろう。
問十五	標準	【空欄補充】「皮」が伝えてきたものを表現する語句を探す。49行目にある。
問十六	標準	【本文理解】文章全体と各選択肢とを照合する。ロは、15行～16行目の内容に反する。

(三) 古文。出典：『別本八重葎』。

《本文字数：約 1650 字＝昨年より約 600 字増加。設問数：8＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問十七	易	【文法】A＝(e段音＋る)であることに着目する。 B＝直前が心情語であることに着目する。
問十八	標準	【傍線部理解】1＝「御心ざし」「やは」に着目する。 2＝「ふりがたし(旧り難し)」に着目する。
問十九	標準	【傍線部理解】重要古語「めやすし」から選択肢をしぼる。
問二十	やや易	【和歌の修辞法】「ふり」が「降り」と「古り(旧り)」の掛詞である。
問二十一	標準	【敬意の対象】aは末摘花への敬意、他は光源氏への敬意である。
問二十二	やや易	【傍線部説明】直前の「いかさまにせん」、及び、重要古語「あきる」から。
問二十三	標準	【内容合致】ニは本文末8行の内容と合致する。
問二十四	易	【文学史】『平中物語』は、『源氏物語』に影響を与えた歌物語。基本である。

(四) 漢文。出典：『陸九淵集』。

《本文字数：218 字＝昨年より 23 字増加。設問数：4＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問二十五	やや易	【漢字の意味】「齊」は、「ひとシ」と読み、「同じさま」の意。
問二十六	標準	【返り点】「毋」に着目し、禁止形だと見抜く。「友」は「ともトス」と読む。
問二十七	やや難	【傍線部理解】「如何」が目的語をとるときの形を覚えていたか。
問二十八	やや難	【本文理解】「趨向」が何度も繰り返されていることに注意。イだと限定的である。

〔総合コメント・今後の指針〕

全体の難易度は、昨年並み。昨年出題されていた大問二の70～100字の記述問題は出題されなかったが、古文で約1600字の長文が出題された。時間に追われた受験生が多かっただろう。

大問一は、「恋愛観の変遷」についての評論文。昨年より易化した。本文も読みやすく、設問も基本・標準レベルのものばかりなので、高得点を狙いたい。

大問二は、「人間と自然の交流面としての皮」についての評論文。昨年よりやや易化した。大問一と同様、基本・標準レベルの設問ばかりなので、ここも高得点勝負となるだろう。

大問三は、『別本八重葎』。昨年よりやや難化した。約1600字の長文だが、設問がさほど難しくないのので、古文をしっかり学習してきた受験生は手応えがあっただろう。現代文が易しかったぶん、ここで差がつくと思われる。

大問四は、『陸九淵集』。昨年より難化した。本学部を受験する場合は、漢文の学習もしっかりしておきたい。